

人見知りの人・人見知りではない人の差 関 蒼彩

動機・目的

- ◇対人不安（人見知り）傾向が強い人とそうでない人の違いはどこにある？
- ◇小さい頃一緒に過ごす時間が長い兄弟姉妹構成が関係しているのではないか。

結果

① 兄弟構成別対人不安度について

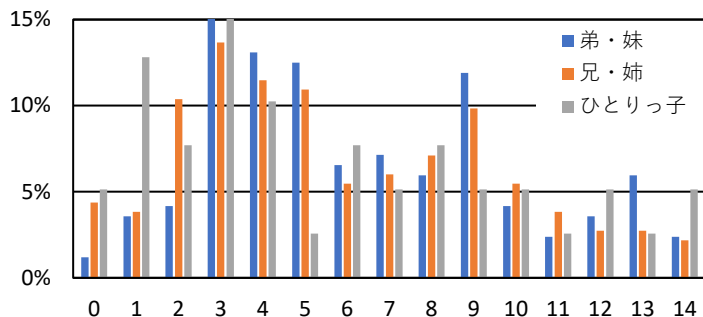


図1 姉妹構成における対人不安度
縦軸は人数の割合、横軸は選択した項目数を示した。

○3つの項目それぞれの対人不安度で大きな違いは見られなかった。

○対人不安度3～5の人が多かった。

◎ 多くの人がある程度の対人不安傾向を持つ。

② 上下兄弟間の項目別対人不安傾向の差

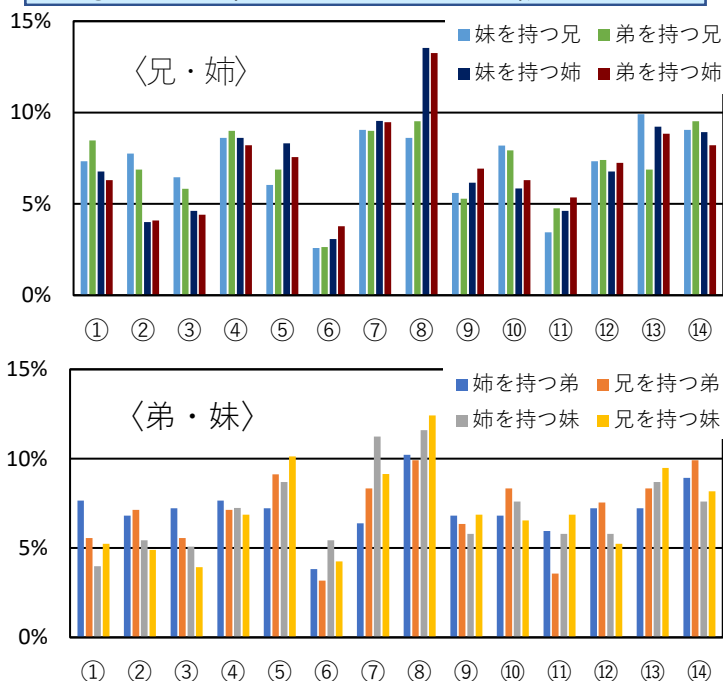


図2 上下姉妹間における項目別対人不安傾向

上図に兄・姉、下図に弟・妹のグラフを示した。縦軸は選択した人の割合、横軸は項目①～⑭を示した。

○④でのみ兄姉と弟妹で差が見られた。

○14項目中13項目で違いが認められなかった。

◎ である人は、複数人の初対面の人がいるグループに入るのが苦手である。

◎ 兄姉であるか弟妹であるかは対人不安傾向にほとんど影響を与えない。

参考文献

- ◆佐藤有耕（1995）「高校生女子が学校生活においてグループに所属する理由の分析」『神戸大学発達化学部研究紀要』3(1),11-20

結論

兄姉であるか弟妹であるかはその人の対人不安度合いにほとんど影響を与えず、男女間での対人不安傾向の差が認められた。

③ 男女間の項目別対人不安傾向の差

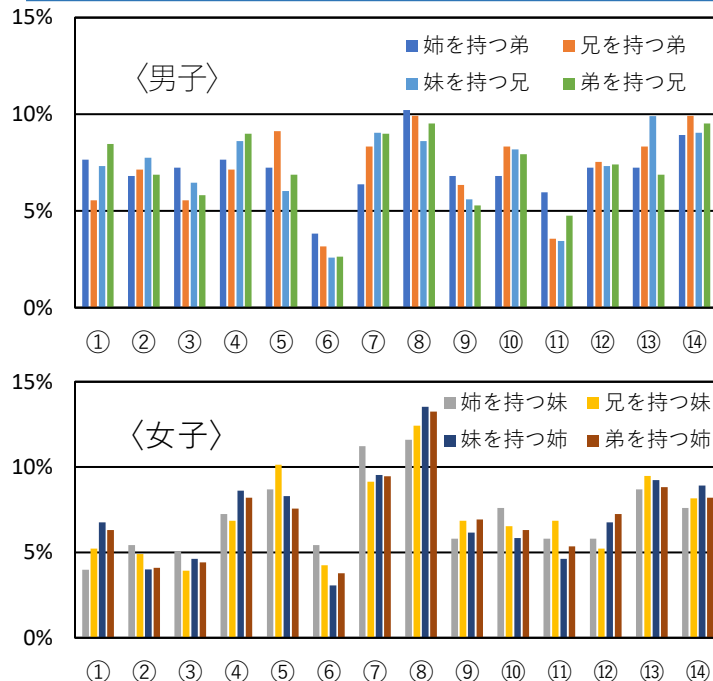


図3 男女間における項目別対人不安傾向

上図に男子、下図に女子のグラフを示した。縦軸は選択した人数の割合、横軸は項目①～⑭を示した。

○②③⑧⑭に関して男女で違いが認められた。

→「人前で自分のことをよく話す」「友達になるまでにあまり時間がかからない」「ただの知り合いに話しかけるのをためらわない」という女子の特徴がみられた。

◎ ②③⑧⑭から分かる特徴と、高校生女子は『複数からの安全保障の獲得』『浮いた存在になることの忌避』により固定的・閉鎖的なグループを作り行動するという論文より、女子は「一人で行動しなくてもいいように早く友達を作りたがる」といえる。

方法

甲陵高校生徒1～3年生に兄弟構成と対人不安に関するアンケートを取りその傾向をみた。(総数 / 394)

- ① 人と目を合わせて話すのが苦手だ
- ② 人前であまり自分のことを話さない
- ③ 他人から友達になるまでに時間がかかる（会って5回目以上）
- ④ 初めての集まりに参加するとき、積極的に輪の中に入っていくことが出来ない
- ⑤ 行動するとき人にからの評価がとても気になる
- ⑥ 新学期がいつも憂鬱である
- ⑦ 自分に対し自信がない
- ⑧ 上手く話せなかった時に後悔する
- ⑨ 電話には極力出たくない
- ⑩ 人が大勢いる場が苦手である
- ⑪ 人前で喋ると顔が赤くなる
- ⑫ 初対面の人と話すことを避けてしまうことがよくある
- ⑬ 友人ではない、単なる知り合いの人と2人きりになった時にとても緊張する
- ⑭ 特別親しいという訳では無い友人や先生に話しかけるのをためらう

※上記の項目で当てはまるとしてチェックした数が多いほど対人不安度が高いとした。

